

## 平成20年度事後評価結果（平成21年 3月）

[ 研究開発課題名 ] **経済的な光ネットワークを実現する高機能集積化光スイッチングノードの研究開発**

[ 委託機関名 ] **富士通株式会社**

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>高い性能をもつデバイス・モジュールと、これを組み合わせた高機能な光スイッチングノードの開発がなされている。達成されたモジュール性能は、実システムの要求を満足し得る性能をもっており、開発の成果が十分に達成されていると考える。一部の性能値については、当初設定目標を変更しているが、現段階のシステム要求に合致した変更であり、問題はないと考える。</p> <p>デバイス技術とシステム構築技術を兼ね備えた企業の特徴を生かして、今後とも高い技術力を保つとともに、この分野の企業の牽引役として引き続き活躍されることが期待される。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>最近の光通信網の高速化技術は、光処理で対応する従来の方向から、光位相変調技術やデジタルコヒーレント受信技術へ移っています。この影響を受けて、光処理デバイス製造会社や光スイッチングノード製造会社が減少している現状から、ある程度のシェア確保は容易と考えられます。</p> <p>受託者は、自社の光ノード装置に今回開発した光モジュールを組み込んで市場参入する計画であり、当初、海外への出荷が予定されています。さらに、その後、国内市場への出荷も計画されており、着実な事業化を想定していると言えます。</p> <p>当初は、製造ライン設備への投資が必要であるため収益納付は困難としていますが、2010年度からは営業利益の計上を見込んでいます。この利益の一部を波長分散補償モジュールと偏波モード分散補償モジュールを光ノード装置へ組み込む開発を進めることで、より高速の光伝送の要求が高まる時期になると、他社と比較して特徴を打ち出すことが可能になり、更なる市場シェアの拡大が期待できます。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。